

✿ 毎月23日は「福岡市 子どもと本の日」です ✿

～ 子どもの読書活動を推進しましょう ～

標語

「小さな本のおおきなせかい」

「こどもの読書週間」が始まります！（4月23日～5月12日）

この標語は第59回「こどもの読書週間」の標語です。「子ども読書週間」（4月23日から5月12日）は、「子どもたちにもっと本を！」との願いから、昭和34年に誕生し、その後『子ども読書年』である平成12年に現在の期間に変更されました。

本市では毎月23日を「福岡市子どもと本の日」としています。平成13年12月に公布された「子どもの読書活動の推進に関する法律」により、4月23日が「子ども読書の日」と定められたことに基づいています。

国が4月23日を「子ども読書の日」としたのは、イギリスの文豪シェイクスピアとスペインの文豪セルヴァンテスの命日である4月23日をユネスコが「世界図書・著作権の日」と宣言したことなどにちなんだものと言われています。

4月には子どもと本に関する記念日として、4月2日「国際子どもの本の日」があります。これは国際児童図書評議会が制定したもので、4月2日が童話作家のアンデルセンの誕生日であることからこの日に決められました。世界中が、子どもの本を通して国際理解を深め合うとともに、子どもたちの読書の対象となる本に対する関心を引き起こすことをねらいとしています。

福岡アジア美術館や福岡市博物館でも、「子どもの読書週間」にちなみ「本と出会うミュージアム2017」を開催しています。（次ページに詳細を掲載）



（こどもの読書週間のマーク）

（こどもの読書週間のリンクバナー）

（こどもの読書週間のポスター）

（上のポスターの他にも、下のようなロゴやマーク、さらに、しおりやポップ等が同協議会のホームページからダウンロード可能です。ご活用ください。）

👉「読書推進運動協議会」のHPアドレス：<http://www.dokusyo.or.jp>

□ 福岡アジア美術館・福岡市総合図書館からのお知らせ（4月～5月）

＊ 福岡アジア美術館

「アジアの絵本と紙芝居の読み聞かせ」

（4月）23日（日），25日（火）

（5月）13日（土），14日（日），20日（土），
21日（日）

（時間）11：30～12：00，13：00～13：30（1日2回）

（会場）7階「キッズコーナー」（申込み不要）



（福岡アジア美術館での読み聞かせ）

❖ お知らせです！

福岡アジア美術館，福岡市博物館では，4月23日の「子ども読書の日」を受け，それぞれの図書閲覧室にて「本と出会えるミュージアム 2017」を開催中（5月21日まで）です。美術館・博物館の特色が生かした本との出会いがあると思います。これまで，それぞれの館に行かれたことがある皆さんでも，新しい発見があるのではないかと思います。期間中，ぜひ，足を運ばれてみてください。

＊ 福岡市総合図書館

毎月の「おはなし会」：4月後半から5月の日程です。

（4月）22日（土），23日（日），29日（土・祝），30日（日）

（5月）3日（水・祝），4日（木・祝），5日（金・祝），6日（土）

7日（日），13日（土），14日（日），20日（土）

21日（日），27日（土），28日（日）

♪時間と場所：土曜日：14：30～15：00（幼児向け）

日曜日：14：30～（幼児向け）

15：15～（幼児～小学生向け）

場 所：「こども図書館 おはなしの家」です。



♪お知らせ：5月5日（金・祝）は「こどもの日特別おはなし会」が実施されます。

・テーマ 「～ことばであそぼう ことばでたのしもう！～」

・時 間 14：00から15：15まで

・会 場 第1会議室(3F)：小さい子のおはなし会，おりがみあそび，作ってあそぼう
と 内 容 第2会議室(3F)：大きい子のおはなし会

託児室(3F)：赤ちゃんおはなし会（11：00～，13：30～の2回）

（小さい子：3～6歳向け，大きい子：小学生向け，赤ちゃん：0～2歳向けです）

□ 新入生の皆さんに配布しました！ 「新1年生へのおすすめ本リスト」

生涯学習課では、小学校・中学校に入学する子どもたちを対象に、「学校の先生たちが選んだおすすめの本」リストを作成し、今年度で5回目になります。おすすめ本は小学校・中学校の教科等研究会に依頼し、推薦していただきました。

(右の図は小学生を対象とした今年のおすすめ本リストの表紙の画像です。)

各学校におかれましては、学校図書館の特設展示コーナーでの紹介や新規購入本の参考にご活用ください。リストの内容は、下記のホームページからご覧ください。

なお、このページからは次のようなリストもあわせてご覧いただくことができます。こちらもぜひ、ご活用ください。



- 閲覧可能なリスト：**
- ・図書館員のひみつの本棚（子どもの発達段階別に掲示）
 - ・図書館員の選んだおすすめ100冊
 - ・齋藤惇夫先生（児童文学作家）おすすめの本リスト
 - ・松岡享子さん（東京子ども図書館理事長）おすすめの本リスト

おすすめ本の紹介サイト：アドレス：

<http://www.city.fukuoka.lg.jp/kyoiku-iinkai/shogaigakushu/ed/012.html>

□ 図書館員のひみつの本棚 《No.132》

福岡市総合図書館 読書相談員の重村さやかさんが、昨年度に引き続き毎月素敵な本を紹介してくださる楽しいコーナーです。今回は新年度の始まりにふさわしく、乳幼児や小学校の新1年生におすすめの絵本です。50年以上読み継がれている絵本ですから、きっと子供たちの心に響くと思います。

☆ 今月の本：『こねこのぴっち』

（ハンス・フィッシャー／おはなしとえ 石井 桃子／やく

岩波書店 1954年（改訂新版2001年）756円



4月・5月生まれの文学者たち



✿「かいけつゾロリ」と原 ゆたか

(1958年4月28日 熊本県熊本市生まれ)

「かいけつゾロリ」は、いたずら王者を目指して修行を続けるきつねの「ゾロリ」とその弟子のイノシシ兄弟が、たくさんの人々（動物）と出会いながら困難を乗り越え、成長していく物語です。ゾロリは、いじわるやわるいことをたくらみかっこよく登場しては、いつも失敗します。しかし、どんな失敗しても、どんな逆境でも、くじけず、常に前向きなところが子どもたちに人気を博しています。この「かいけつゾロリ」シリーズの第1巻は、1987年の「かいけつゾロリのドラゴンたいじ」に始まり、現在58巻まで刊行されています。累計販売部数は、3500万部を超えています。

原氏は、作品をつくるアイデアを得るために、さまざまな映画や本、テレビやゲーム、カプセルトイを子どもに混じって真剣になることの中からアイデアを得ているといいます。「ゾロリ」は、テレビアニメや劇場映画も公開されるなど子どもたちから大変人気の作品です。これからの「ゾロリ」の活躍がとても楽しみです。

✿「スイミー」とレオ・レオニ



(1910年5月5日 オランダ アムステルダム生まれ)

「スイミー」は、スイミーという名前の小さい魚が集まって大きな魚に立ち向かう物語です。レオ・レオニは、1910年にオランダに生まれました。イタリアで暮らした後、アメリカに亡命し、イラストレーター、グラフィックデザイナーとして成功を収めました。その後、イタリアへ帰国し、1999年イタリアのトスカーナで亡くなりました。

レオニ氏が書いた最初の絵本は、ニューヨークで第一線のグラフィックデザイナーとして活躍していた49歳の時、一緒に電車で移動していた孫のために作った「あおくときいろちゃん」です。その後、子どもたちのために絵本をたくさん書いています。「スイミー」「フレデリック」「アレクサンダとぜんまいねずみ」の3作品でカルデコット賞を受賞しました。日本でもその多くが翻訳出版され多くの人に親しまれています。

※ カルデコット賞は、アメリカで出版された絵本の中で、もっともすぐれた絵本に対して年に一度贈られる賞です。1937年アメリカ図書出版協会によって創設されました。今までに、「月夜のみみずく」「白雪姫と七人の小人たち」などの絵本が受賞しています。

☆ あとがき

新しい年度になりました。本年度も「福岡市 子どもと本の日」通信では、学校図書館の運営・活用に役立つ情報の提供、福岡市総合図書館や福岡アジア美術館などの読書活動の紹介などに努めてまいります。特に、学校図書館の運営・活用に役立つ情報の提供では、読書週間中の活動だけでなく、学校で日常的に取り組まれている読書活動などを紹介していきます。学校にも訪問しますので、どうぞよろしくお願いいたします。

発 行： 福岡市教育委員会 生涯学習課

電 話：092-711-4655 FAX：092-733-5538

図書館員のひみつの本棚 第132回

50年以上読み継がれている素敵な絵本です。

『こねこのぴっち』（岩波の子どもの本）

ハンス・フィッシャー／おはなしとえ 石井 桃子／やく 岩波書店 1954年
（改訂新版 2001年）756円

<お勧め年齢>

- ・乳幼児☆☆☆
- ・低学年☆☆
- ・中学年――
- ・高学年――
- ・中学生――
- ・高校――
- ・一般――

（☆が多い年齢の子どもにお勧めです。）

<本の紹介>

りぜっとおばあさんの2匹の猫が、5匹の子どもを産みました。そのうちの1匹、ぴっちは、他の4匹とは違い、りぜっとおばあさんの飼っている他の動物の真似ばかりしています。そして、ついにはうさぎ小屋に閉じこめられてしまいました。

<子どもに手渡す時のポイント>

1954年に岩波の子どもの本から出版後、1987年に同じく岩波書店から大判の絵本が出版されています。表紙の絵と色は違いますが、内容は同じです。岩波の子どもの本が20cm程度×16cm程度なのに対し、大判は、縦は子どもの本より少し大きいくらいですが、横が30cm以上となっています。同じおはなしと絵ですが、レイアウトが異なる部分も多く、機会があれば読み比べてみて、その時々合った方を子どもに手渡せるとよいと思います。

また、どちらにも美しい絵だけのページがあります。それらのページはぜひじっくり時間をかけて子どもたちと楽しんでください。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。

総合図書館 重村さやか

